

## 持続可能な行政経営に向けて公共施設の見直しを行います

近い将来、巨額の更新投資負担が集中して発生することが予想されるとともに、少子高齢化による人口構成の変化及びそれに伴って求められる施設機能の変化への対応や、施設の老朽化に伴う安全確保などの課題も顕在化しており、将来にわたり持続性のある良質な公共サービス提供を行うために、公共施設の見直しを行います。

### 公共施設の

# 量

#### の課題

- 施設の保有量が多いため、利用者の少ない施設などは減らしていく必要があります。
- 空きスペースの有効活用を検討し、本当に市が保有すべき施設なのか検討していく必要があります。
- 市の公共施設全体を眺めて、他の施設との集約や、近隣市町との連携等を検討していく必要があります。

### 公共施設の

# 質

#### の課題

- 3割以上の施設が築30年を過ぎており、改修時期が過ぎている施設もあります。
- 多くの施設について計画的な保全がなされておらず、建物の寿命の短縮を招く可能性があります。
- 民間活用など幅広いサービス提供のあり方を視野に入れた検討が必要です。

### 公共施設の

# コスト

#### の課題

- 市の財政見通しでは、施設の改修や更新のための財源に余裕がなくなっています。
- 施設の更新や維持管理には多大なコストがかかり、今あるすべての施設について更新を行うことは困難です。
- 施設によって利用者数やコストにばらつきが見られ、利用料の見直しを検討する必要があります。

## 白書の作成は、公共施設の見直し検討に向けての第一歩です。

白書では市が保有している公共施設の情報を整理して、現状と課題をまとめました。今後は公共施設の最適化に向け、公共施設の総合的かつ計画的な管理を推進するための行動指針である「公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設の見直しに取り組みます。今後の取組についても、市民の皆さまと情報を共有していきます。



三次市公共施設白書：概要版 平成27年9月

三次市 財務部 財産管理課

〒728-8501 広島県三次市十日市中二丁目8番1号 TEL:0824-62-6139 (直通) FAX:0824-62-6235

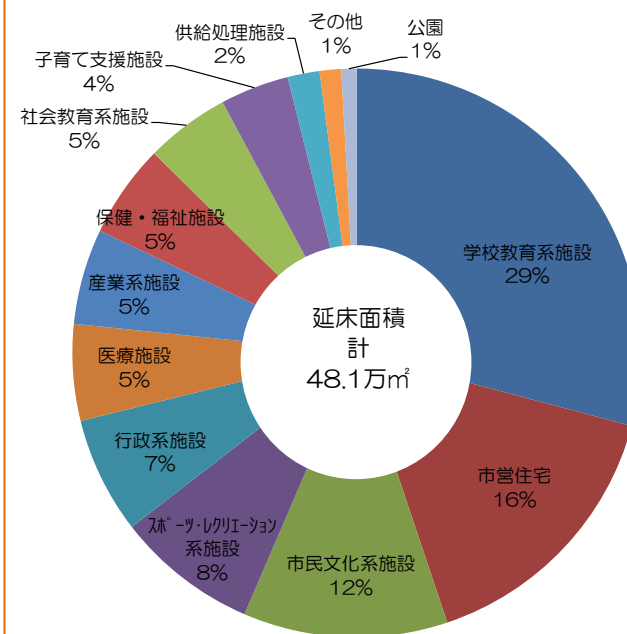
三次市ホームページ: <http://www.city.miyoshi.hiroshima.jp>

# 三次市公共施設白書・概要版

本市では、少子高齢・人口減少など社会状況が変化中、市民の財産である公共施設を将来にわたって持続可能な形で継承していくため、保有している公共施設について、情報の一元整理を行いました。施設用途毎に設置目的や現状の姿を市民の皆さまに広く知ってもらうため、三次市公共施設等総合管理計画（白書編）（以下「公共施設白書」という。）として取りまとめました。

公共施設白書を通じて公共施設についての現況と課題を共有し、今後の公共施設のあり方について市民の皆さまと共に検討・協議していくための基礎資料とするものです。

## 三次市の主な公共施設について



**施設数：695施設**  
**延床面積：48.1万㎡**  
を保有しています

合併に伴い、本市の公共施設の保有量（延床面積）は、マツダスタジアム約21個分の広さに相当する約48.1万㎡となっています。

施設用途(大分類)	施設数	棟数	延床面積(㎡)
学校教育系施設	51	280	140,144.41
市営住宅	72	339	75,576.77
市民文化系施設	137	166	55,915.10
スポーツ・レクリエーション系施設	51	173	38,760.51
行政系施設	146	173	31,900.51
医療施設	8	20	26,357.01
産業系施設	63	107	26,113.72
保健・福祉施設	23	41	25,562.10
社会教育系施設	28	38	23,007.69
子育て支援施設	31	44	18,668.99
供給処理施設	4	15	8,727.60
その他	45	73	6,070.27
公園	36	76	4,215.77
合計	695	1,545	481,020.45

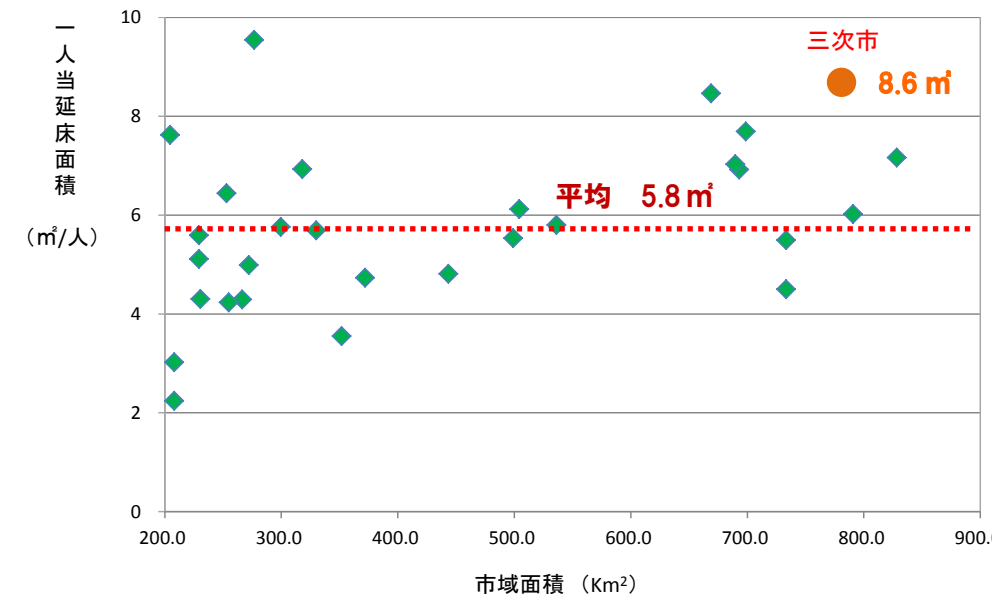
※公有財産台帳（2014.3）を基に整理、一部新規整備施設を含む。

図 機能（用途）別床面積の内訳

**学校教育系施設が全体の29%を占めています**

学校教育系施設が29%、市営住宅が16%、市民文化系施設が12%と多く、これらで全体の約6割近くを占めています。また、市民一人当たり延床面積は8.6㎡/人で、類似自治体と比較しても多くなっています。

### 類似自治体と市民一人当たり公共施設保有量の比較



※東洋大学 PPP 研究センター「自治体別人口・公共施設延床面積調査」(2012.1)

## 公共施設の現状は・・・？

**築30年を超過した建物は全体の34%です**

耐震性が保たれていない施設もあり、現在、耐震化率90%（多数利用施設）を目標に耐震化に取り組んでいます。

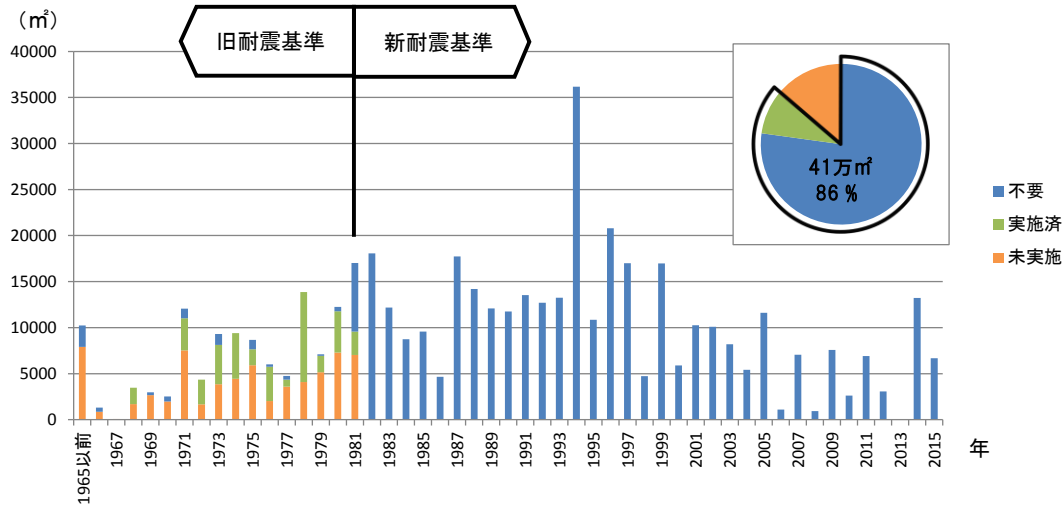


図 保有施設の耐震改修状況

**更新には年平均で44億円もの費用がかかります**

築後30年で改修、60年で建替えとした場合、改修未実施である「積み残し」施設が全体の約2割程度あります。

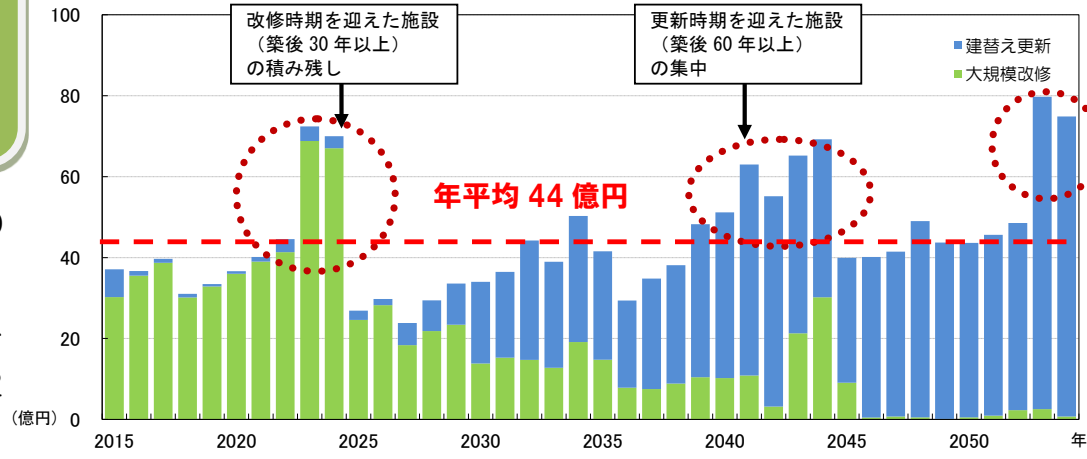


図 更新費用試算（更新・改修別）

**施設によって更新が集中する時期があります**

学校教育系施設はほぼ継続して改修や更新が必要になってきています。

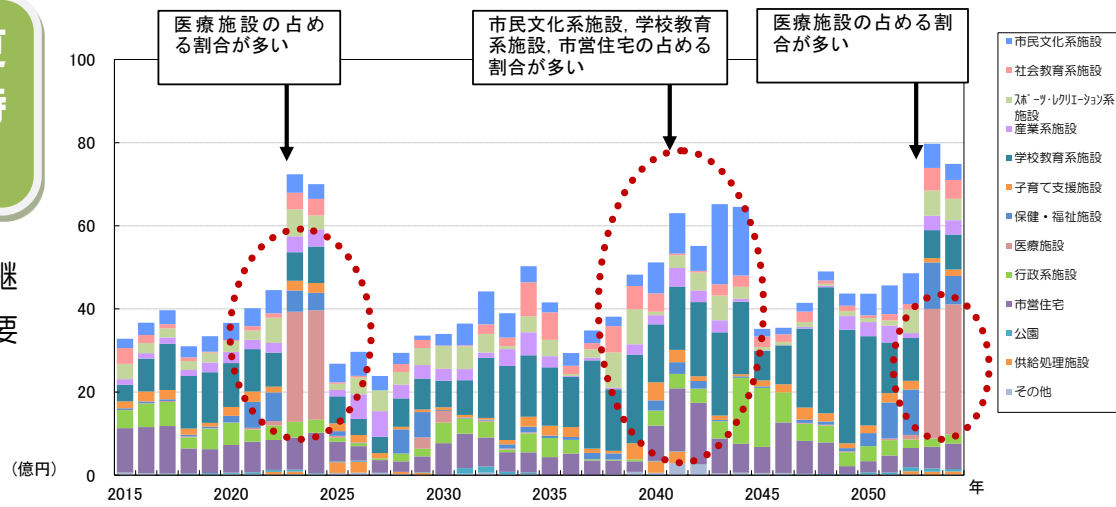


図 更新費用試算（施設類型別）

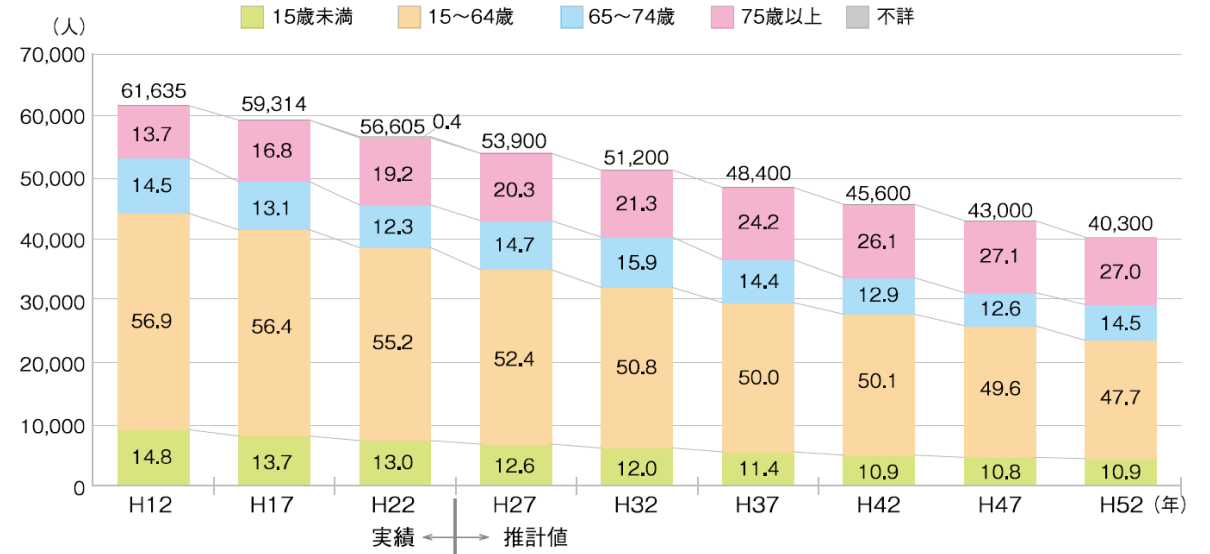
### インフラ系施設について

道路、上下水施設などのインフラ系施設の保有量も多い傾向にあり、試算では1年当たりの更新費用が道路で26.5億円、上水道施設で19.6億円、下水道施設で10.7億円が必要となります。また、橋りょうの補修費用は多い年で年間25.3億円と推計しています。

## 三次市の現状と将来の姿は・・・？

**人口減少・少子高齢化が進んでいます**

人口減少と少子高齢化は今後も継続するものと見込まれ、概ね20年後の平成47年には、総人口は43,000人程度まで減少し、65歳以上の人口が占める割合は約40%に達するものと推計されています。（国立社会保障・人口問題研究所推計値）



注-1：H12～22年は国勢調査、H27年以降は社人研推計値（H25年3月推計）による。  
 -2：H27年以降の総人口は、十の位を四捨五入して表記  
 -3：図中数値は構成比（%）

図 将来の人口見通し（年齢区分別割合）

**財政負担の軽減が必要です**

今後、公共施設（道路や橋りょうも含む）の更新などに充てられる普通建設事業費や公債費は、実施計画事業等により減額を見込んでいます。一方、義務的経費である扶助費は高齢化の進展などにより増額を見込んでいます。

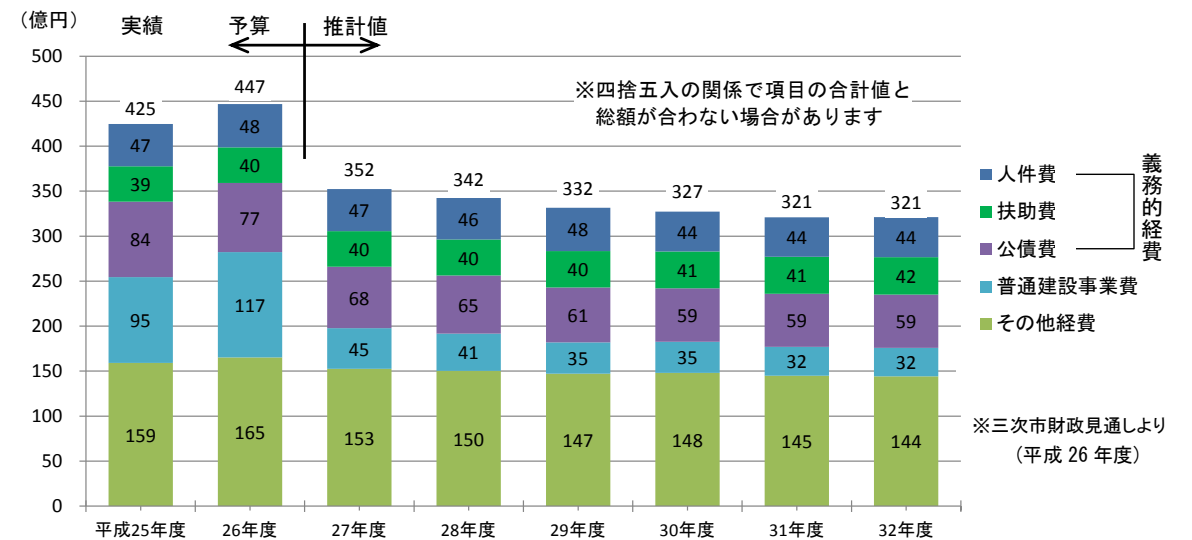


図 歳出の見通し

三次市では将来にわたって人口減少が予想されていますが、今まで通りすべての施設を保有したままでは、維持管理に多くの費用がかかり、本当に必要なサービスにお金を使えなくなる可能性があります。また、すべての施設について適切な維持管理が出来なくなる可能性もあります。